

JAIPA

Express

Vol.53
March 2021

CONTENTS

ご挨拶

コラム

レポート

沖縄 ICT フォーラム 2020 in 久米島

JAIPA Cloud Conference 2020

部会報告

事務局通信

行事一覧

役員一覧

会員一覧

全国プロバイダー一覧

People,people

皆様、コロナ禍が継続しておりますが、お元気でお過ごしでしょうか？

JAIPA会長の会田でございます。

昨年の春以降、新型コロナウイルスの流行により、様々な変化が起きました。会員の皆様にかかれましては、それぞれに大変なご苦労もあったかと思えます。今回のご挨拶にて本年度の振り返りと、コロナ禍でのJAIPA活動状況も交えて、会員の皆様にお伝えしたいと思います。

昨年の年始にはAIPAの設立20周年記念の賀詞交歓会を無事に執り行う事が出来ました。今から考えますと大勢のご来賓、ゲストをお招きして、皆様と直接対面にてお話をさせて頂けたのが、遙か昔の様に感じます。

そして昨年度は、本来であれば東京オリンピック・パラリンピックの開催も予定されており、非常に明るい話題で賑わう年となるはずでした。

しかしながら、新型コロナウイルスに対応するために私たちの生活様式は一変し、3月に成立した新型コロナウイルス対策の特別措置法に基づき4月7日に最初の緊急事態宣言が発令されました。それに伴い4月に予定されていた愛媛県松山市での「第53回JAIPAの集いin松山」は中止を余儀なくされ、以降、会員企業様のビジネスについても各所で計画の変更を余儀なくされるなど、これまでに経験したことのない事態への対応を迫られた1年でした。

JAIPA事務所におきましても、普段は全国からリアルに集まった会員の皆様が熱く議論を重ねて頂いておりましたが、以降、オンライン会議を導入、部会等も全てオンラインにて実施する様に切替対応を行いました。

一方で、会員の皆様のビジネス領域であるインターネットの重要性に関しては、テレワークや大学等でのオンライン授業の際に不可欠なツールとして、改めて社会インフラとして無くてはならないものであると再認識されたところでした。

また、この状況に関連して総務省から要請のございました「新型コロナウイルス感染症の影響拡大に伴う料金支払期限延長等の実施に係る要請」や「新型コロナウイルス感染症の影響拡大に伴う学生等の学習に係る通信環境の確保に関する要請」などの対応につきまして、多くの会員事業者様にご協力をいただきました事をご紹介すると共に、この場を借りて御礼を申し上げます。

テレワークが一気に普及したり、マスクを一年中つけて過ごす事になるなどという事は、昨年の賀詞交歓会の時には想像もしていなかった現実ですが、この期間を一言で纏めるならば、良くも悪くも「新たなチャレンジを実践するタイミング」であったのではないのでしょうか。しかもそれが世界規模で行われるという、これまでに経験のない事を短期間に行ったこととなります。

これからまた社会が良い方向に再始動できます様、事態の収束を祈念しておりますが、2021年度につきましてはJAIPAとしても引き続き会員企業様の皆様それぞれの会社を通じて、生活やビジネスの基盤であるインターネットのインフラをより一層支えながら、社会に貢献をしていきたいと考えております。

さて今般、業界に於きましては、MNO各社による5Gサービスの開始、携帯料金の引き下げといった大きな動きが目立っており、この会誌が出るころには、MNOによる廉価サービスの提供が実際に開始されている想定です。

我々ISPと致しましては、家庭内では引き続き固定通信が頑張っており、巣ごもり需要での映像コンテンツによる通信トラフィックの増加や、テレワークに必要な安定した通信回線のニーズの喚起など、ISP各社での対応を進められている所かと思えます。

また昨年より延期されたオリンピック・パラリンピックが、どの様な形で開催されるにせよ、会期中には映像配信を始めとして、関連するトラフィックの増加も見込まれております。恐らくウィズコロナでの大会開催につき、ICTが貢献する役割は重大で、大会の成功に向けた社会インフラを担うJAIPA会員企業の担う役割は大きいと考えます。

冒頭でもご紹介しました通り、昨年の緊急事態宣言の発令から集い等のイベントの殆どが延期またはWeb上での開催となり、現在は部会や理事会も全てオンラインでの開催としております。

JAIPAの会員様同士が顔を合わせる機会が少なくなり寂しい状況である反面、時間的、物理的な制約などで中々JAIPAの会合にご参加頂けなかった会員様も、現在はオンラインでの会議がメインですので、気軽に参加ができるようになっております。是非この機会に、東京まで足を運ばずに参加できるメリットを利用して、多くの方々がJAIPAの活動に積極的に関わって頂き、情報交換を活発に行っていただけます事をお願いしたいと思います。

最後に、今年度の会員企業様の益々のご発展とイノベーションへの挑戦を祈念致しまして、締めのご挨拶とさせていただきます。有難うございました。

一般社団法人日本インターネットプロバイダー協会
会長 会田 容弘





情報漏洩の危険性は社外だけでなく社内にも存在するが、スタッフがリモートワークをする場合、企業はどのように社内を定義すればよいのだろうか？



企業外部からのサイバー攻撃について（標的型攻撃の例）

情報漏洩などの被害をもたらすサイバー攻撃の代表例としては、標的型攻撃があります。

その一般的な手口としては、標的となる組織内PCにマルウェアと呼ばれる不正アクセスを実行させようとするソフトをインストールさせ、さらに、攻撃者が感染コンピュータを制御したり、指令を送るために設置したC2（Command & Control）サーバとの接続を確立しておき、いつでもサイバー攻撃が実行できるようにしておくことが見受けられます。また、オフィスや物理的な場所からリモートワークへの移行は、企業にとって未知のセキュリティ問題から守るための難しい状況を生み出しています。

例えば、以下の図1に示すフローのようなイメージです。

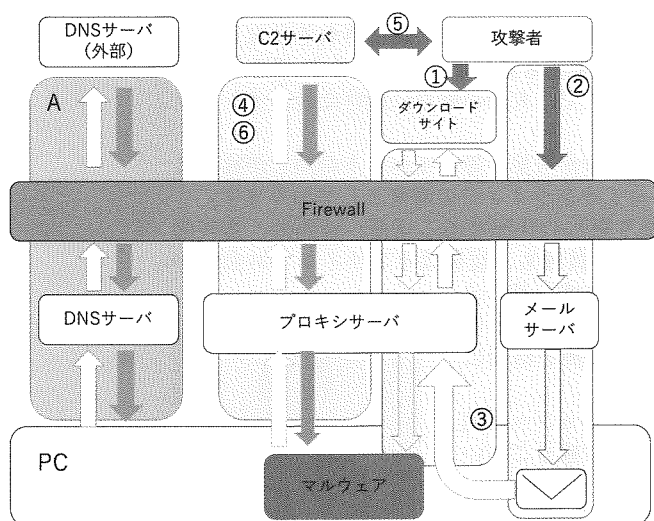


図1 典型的な情報インフラ構成とC2サーバ通信

【サイバー攻撃の流れ】

- ① 攻撃者はマルウェアを作成後、ダウンロードサイトにマルウェアを配置する。このサイトのURLは例えばWindows Updateといった正式なサイトを偽装している。さらに、C2サーバも用意しておく。
 - ② 攻撃者は攻撃対象のユーザに正式な通知を偽装してニセのURLを含むメールを送る。
 - ③ ユーザはうっかり偽装URLのリンクをクリックする。ユーザーのドメインに関する情報がDNSにより検索され(A)、マルウェアがユーザPC上でインストール&実行される。
 - ④ マルウェアはC2サーバと接続を確立し、ビーコンを定期的に通信する。この際、マルウェアに設定されたC2サーバ先が名前前で指定されている場合は、ユーザードメインがDNSにより検索される。(A)
 - ⑤ 攻撃者はC2サーバに対して、サイバー攻撃を仕掛けるコマンドを実行するよう指示する。
 - ⑥ C2サーバは指示されたコマンドをマルウェアに対して指示し、マルウェアはユーザPC上でそれを実行する。
- これらの動きに対して、以下の2方向からの防御策が必要となります。

- ①マルウェアの動きを継続させないようにする
- ②サーバ通信をブロックする

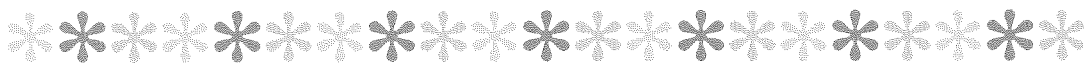
防御策①：マルウェアの動きを継続させないようにする

運営しているサイトの脆弱性や電子メール、他のインターネットWebサイトを利用、またはそれらの組合せによって、組織内PCにマルウェアを知らないうちにインストール→実行されてしまっているのが現状です。

しかし、このマルウェアによりサイバー攻撃が実行されるのは、インストールされた後、しばらく経ってからになることが多い。つまり、長期間何もされずにマルウェアが実行されたままの状態になっているのです。

このインストールから攻撃までの“放置期間”は何のためにあるのか？

その理由としては、長期間経過させることにより、悪意ある行動が実行されて異常に気づいた時には、すでに原因が把握しにくくなることから、犯行の追跡を困難にさせること。また、十分な追加対策が取れないままになることを狙っているのです。



例えば、マルウェアが仕込まれたタイミングのデータ情報が消失していた。または、マルウェアが実行されているが、サイバー攻撃が実行されていない“放置期間”を正常な状態と勘違いさせる……などがあります。

マルウェアの“放置期間”が設定される具体例としては、Window OSにおいては、自動起動レジストリ（スタートアップレジストリ、サービスレジストリ）、スタートアップフォルダ、ログオンスクリプト、タスクスケジューラなど。

対策としては、マルウェア感染されるより前に確実にこれらの情報を変更前情報として保管しておき、その後はその情報との差異により異常を検知する仕組みを構築することが必要です。

さらに、組織内PCにウイルス対策ソフトを利用している場合は、ウイルス対策ソフトが検知した攻撃のサインが正しくシステム管理者に通知され、システム管理者は通知された情報を正しく解釈して、正しく対応が行われるかを点検しておくことも必要となります。

防御策②：C2サーバ通信をブロックする

標的型攻撃のもう一つの特徴としては、C2サーバと定期通信（ビーコン）を行うこと。

この通信は極力目立たないように工夫されていることが多いのです。

例えば、一般的に利用可能な HTTPやHTTPS通信を使ったり、通信先ドメイン名を正規サイトらしく見えるものにしたりする場合があるので、まずはPCからのインターネットへのリクエストが正常である通信を記録しておくことが必要となります。

組織内PCがインターネット通信をする経路としては、一般的な企業におけるネットワーク構成では、組織内DNSを利用してサーバ情報検索（この際DNSサーバは外部DNSと通信）後、その接続先への通信をプロキシサーバに依頼（プロキシサーバは組織のFirewallを介して外部サイトに代理アクセス）、代理アクセスにより得られた情報をPCが取得、という流れになるのです。

さらに、自組織内ネットワークにメールサーバを運用している場合は、その経路も追加されます。したがって、この経路上の各拠点（PC、DNSサーバ、プロキシサーバ、Firewall、メールサーバ）がPCの異常通信を検知できるポイントになるわけです。

では、異常な通信となるC2サーバとの通信を把握するにはどうすればよいか？

それは、攻撃を示唆する情報=IOC（Indicator of Comprom-

ise（Compromiseはここではセキュリティ侵害の意）と呼ばれる情報がセキュリティ対策ソフトやサービスを開発提供している事業者などから提供されており、ここにあるC2サーバ情報というものを活用する方法があります。

なお対策ステップとしては、監視とブロックがあり監視ステップでは、各ネットワークポイントで以下内容を実施するようにする。

- ・PC……マルウェア（その派生ファイルも含めて）があるか、マルウェアの“放置期間”設定があるか？（「①マルウェアが継続的に動作しないようにする」の対応）
- ・DNSサーバ……C2サーバへのドメイン検索（名前解決）が行われているか？
- ・プロキシサーバ……C2サーバへのリクエストがあるか？
- ・Firewall……C2サーバへの通信があるか？
- ・自組織内メールサーバ……攻撃メールが送られてきたか？

次に監視ステップでC2サーバ通信が検知された場合、ブロックステップに移行する。ブロックステップでは、各ネットワークポイントにて以下を実施する。

- ・DNSサーバ……C2サーバへドメイン検索（名前解決）した場合に、危険なドメインの情報をPCに提供しないようにする（無害化）。

PCへは「脅威ドメインへアクセスしようとしたため、ブロックした」旨のメッセージを表示する。

（DNSの異常ではなく、PCから危険なアクセスが発生したことを認識できるようにする）

- ・プロキシサーバ……C2サーバをブラックリスト方式でブロックする
- ・Firewall……C2サーバへの通信をブロックする
- ・自組織内メールサーバ……攻撃メールホストをブロックする

弊社では、こうしたサイバー攻撃対策において、脅威データの提供、監視サービスの提供、セキュリティレスポンスの対応を行うことができます。

監視には検知のためのデータが重要ですが、弊社はその範囲をフィッシング、マルウェア、C2サーバ、不審なドメインのみならず、ダークネットにも拡げており、日々複雑・巧妙化するサイバー攻撃に対応できるよう、取り組んでいます。

内部的なセキュリティの危険について（インサイダー脅威）

次に、内部的なセキュリティの危険（特に内部不正による情報漏えい）について考えます。



IPAで毎年公開されている「情報セキュリティ10大脅威」によると、組織内脅威としてあげられている「内部不正による情報漏えい」は2018年 8位→2019年 5位→2020年 2位、と年々上昇している状況¹⁾²⁾。

近年国内外において、インサイダーによる機密データの漏えい（またはその疑いや未遂）が顕著になっていて、ビジネスへの悪影響が増してきています。

例えば、企業の成長に欠かせない重要な技術データ、国の防衛に関わるデータ、特定の個人や企業の内部者しか知り得ないデータといった情報が狙われ、個人情報であれば個人の行動、言動など分析したり、企業の情報であれば不正な競争に利用される危険があるのです。

さらに、被害は対象となる個人・企業・組織ですが、データを管理する企業や組織の管理責任が問われる場合もあります。

ここで、最近国内外で発生した内部不正による情報漏えいの事例を紹介しておきます。

① 2007年 海上自衛隊 イージス関連情報の流出³⁾

直接の経緯としては、2007年、神奈川県警が当時2等海曹の妻を出入国管理法違反の疑いで自宅を家宅捜査した際、押収したハードディスク内にイージス関連情報が含むデータが発見されて発覚した。

防衛省の報告書によると、このデータは当2等海曹が意図的に盗み出そうとしたものではなく、当2等海曹とは別の隊員がもともと自衛隊の官品PCに保管されていたパワーポイントなどの資料をCDや外付けHDDなどに保管したことをきっかけに複数の隊員を経由しながら同じデータがコピーされ続けていった過程で、当2等海曹もそのファイルを入手し、自宅に保管していたとされている。

② 2007年 新日鐵住金 方向性電磁鋼板の製造技術情報の漏えい⁴⁾⁵⁾⁶⁾⁷⁾

もともと韓国において産業スパイ事件として捜査が行われ、ポスコ（韓国）から宝山鋼鉄（中国）への技術転売が明らかになったことが引き金だが、その過程で、これは二次流出であり、一次流出は新日鐵住金の元社員の少なくとも4人によってもたらされたことが発覚した。

③ 2008年 東芝NAND型フラッシュメモリーに関する研究データの競合他社への漏えい⁸⁾⁹⁾¹⁰⁾¹¹⁾¹²⁾

逮捕された東芝の元提携会社社員は、東芝の半導体メモリー開発拠点で勤務しており、東芝の機密情報である研究データにアクセスできる権限を持っていた。

2008年頃、これら研究データを不正に記憶媒体にコピーして持ち出し、競合の韓国企業に渡し、多額の報酬を受け取ったとされる。

④ 2014年 ベネッセコーポレーション 顧客情報データの第三者への漏えい¹³⁾¹⁴⁾¹⁵⁾

逮捕された元委託社員は、データベース開発・管理を行う技術者で、ベネッセコーポレーションの顧客情報データベースへのアクセスが許可されたPC（Windowsと考えられる）で作業する立場にあった。

ある日、この元委託社員は私物のスマートフォン（Androidと考えられる）をこのPCにUSB接続して充電しようとした。その際、スマートフォンへPCのデータを送ることができることに気づいた。

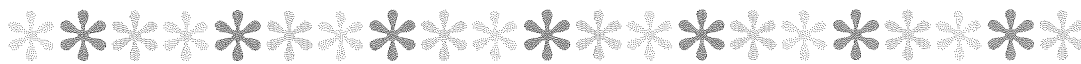
外部媒体に書き出すことができないよう制御するシステムは稼働されていたが、一部スマートフォンでは機能しない状態にあり、当スマートフォンもそれに該当するものだった。そして、それがセキュリティホールとなっていた。（Windowsにおいて、USBマスタストレージとしてではなく、当時新しい規格であったMTPとして認識されていた）

元委託社員には多額の借金があり、その返済のために、不

昨年順位	脅威	順位	組織	昨年順位
NEW	スマホ決済の不正利用	1位	標的型攻撃による機密情報の窃取	1位
2位	フィッシングによる個人情報窃取	2位	内部不正による情報漏えい	5位
1位	クレジットカード情報の不正利用	3位	ビジネスメール詐欺による金銭被害	2位
7位	インターネットバンキングの不正利用	4位	サプライチェーンの弱点を悪用した攻撃	4位
4位	メールやSMS等を使った脅迫・詐欺の手法による金銭要求	5位	ランサムウェアによる被害	3位
3位	不正アプリによるスマートフォン利用者への被害	6位	予断せぬIT基盤の障害に伴う業務停止	16位
5位	ネット上の誹謗・中傷・デマ	7位	不注意による情報漏えい（原則は遵守）	10位
8位	インターネット上のサービスへの不正ログイン	8位	インターネット上のサービスからの個人情報窃取	7位
6位	偽装強盗によるインターネット詐欺	9位	IoT機器の不正利用	8位
12位	インターネット上のサービスからの個人情報窃取	10位	サービス妨害攻撃によるサービスの停止	6位

昨年順位	脅威	順位	組織	昨年順位
1位 (3)	クレジットカード情報の不正利用	1位	標的型攻撃による被害	1位
	フィッシングによる個人情報窃取	2位	ビジネスメール詐欺による被害	3位
4位	アプリによるスマートフォン利用	3位	ランサムウェアによる被害	2位
NEW	メール等を使った脅迫・詐欺の手法による金銭要求	4位	サプライチェーンの弱点を悪用した攻撃の悪化	NEW
3位	ネット上の誹謗・中傷・デマ	5位	内部不正による情報漏えい	8位
10位	偽装強盗によるインターネット詐欺	6位	サービス妨害攻撃によるサービスの停止	9位
1位	インターネットバンキングの不正利用	7位	インターネットサービスからの個人情報窃取	6位
5位	インターネットサービスへの不正ログイン	8位	IoT機器の脆弱性の悪化	7位
2位	ランサムウェアによる被害	9位	個人情報保護情報の公開に伴う悪用増大	4位
9位	IoT機器の不適切な管理	10位	不注意による情報漏えい	12位

図2 「情報セキュリティ10大脅威」 2020年、2019年 出典1) 2)



正に取得した顧客情報を持ち出し、名簿会社へ売っていたとされている。

⑤ 2020年 shopify (カナダ) 社内サポートチームメンバーによる特定販売店の顧客取引情報への不正なアクセス¹⁶⁾¹⁷⁾

2020年9月、shopifyは2人のサポートチームメンバーが200以上の販売店の顧客取引情報の不正なアクセスに関与し、shopifyはこの件を捜査機関へ通報したと発表した。

内部的なセキュリティの危険に対しては、体系的な対策は必須である一方、人への対策も必要となります。

関係会社社員も含めた全従業員への制限強化には一定の効果はあるが、限界もある。犯行を起こそうとする考えに至らないよう、従業員との信頼関係を維持・向上させる努力も必要。しかし、労働環境の多様化により、この努力の必要性は増している一方、困難度は高まっているのが実状です。

また、事例①のように、情報漏えいは必ずしも情報を盗み出すことを目的としているわけではなく、業務を円滑にしたいという考えで行われることもあることから、漏えい者を悪人と一面的に捉えようと、対策が不十分になってしまいます。

セキュリティを担保しつつ、業務が円滑に行われるよう、継続的に業務改善することもセキュリティ対策になるといえますね。

事例②、③に関しては、自組織の情報資産がどこに、どのように管理されているか、誰がいつ作成したのか、情報資産へのアクセスがどのように行われたかをいつでも確認できるようにしておく(トレーサビリティ)必要があります。

さらに、その情報が守るべき情報なのか(つまり、独自情報なのか? 他から不正またはそれに近い形でもたらされた情報は入っていないか?)の観点(情報の独自性)も必要。

これらの必要性は、万一情報漏えいにより訴訟に発展した場合に、自組織の正当性を立証するための証拠となるからです。

ただし、その情報が法令違反に該当する場合は情報保護の対象外であり、内部脅威への対応プロセスとして情報の内部告発を阻止する措置はあってはならない事。

これは、公益通報者保護法(2020年6月改正)により、内部告発の目的が不正でない限りにおいて、内部告発者(改正法では退職者や役員も追加)が保護されるからです¹⁸⁾。

内部脅威に対しても、通信の監視は対策の一つとして有効です。

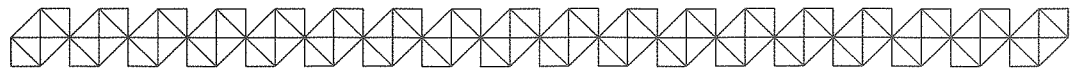
例えば、内部から外部へ通信することによる情報漏えいでは、不正通信検知→遮断により被害の拡大阻止が可能です。

また、組織内関係者の日常通信の監視は、不正アクセスの検知だけでなく、情報アクセスのトレーサビリティの面でも効果的です。

(出典)

- 1) <https://www.ipa.go.jp/security/vuln/10threats2020.html>
- 2) <https://www.ipa.go.jp/security/vuln/10threats2019.html>
- 3) <https://www.mod.go.jp/j/press/report/2008/080321a.pdf>
- 4) https://www.nipponsteel.com/news/old_nsc/detail/index.html?rec_id=4267
- 5) https://www.nipponsteel.com/common/secure/news/20150930_100.pdf
- 6) https://www.nikkei.com/article/DGXNASDD250K3_V21C12A0TJ0000
- 7) <https://toyokeizai.net/articles/-/11558>
- 8) https://www.toshiba.co.jp/about/press/2014_12/pr_j1902.htm#PRESS
- 9) https://www.nikkei.com/article/DGXNASDG13012_T10C14A3CC0000
- 10) https://www.nikkei.com/article/DGXLASDZ19I08_Z11C14A2MM8000
- 11) <https://toyokeizai.net/articles/-/33114>
- 12) <https://web.archive.org/web/20141224141558/http://www3.nhk.or.jp/news/html/20141219/k10014132731000.html>
- 13) <https://blog.benesse.ne.jp/bh/ja/news/m/2014/09/25/docs/20140925リリース.pdf>
- 14) <https://www.nikkei.com/article/DGXMZ039457050X21C18A2CC1000>
- 15) <https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/00859/070900007/>
- 16) <https://community.shopify.com/c/Shopify-Discussion/Incident-Update/m-p/888971/highlight/true#M197487>
- 17) <https://jp.techcrunch.com/2020/09/25/2020-09-23-shopify-data-merchant-breach/>
- 18) https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_system/whistleblower_protection_system/

PIPELINE株式会社



沖縄ICTフォーラム2020in久米島 開催報告書

<https://www.jaipa.or.jp/topics/2019/07/ict2019in.php>

開催日：2020年11月19日（木）～20日（金）
11月18日（水）セキララ会（招待制）
場 所：久米島 イーフ情報プラザ
〒901-3108 久米島町字比嘉160-57
参加資格：JAIPA会員
主 催：一般社団法人日本インターネットプロバイダー協会
協 賛：・楽天株式会社
・インターネット接続サービス安全・安心マーク
推進協議会
参加費：無料
参加人数：55名（現地参加46名 講師リモート参加9名）

■プログラム

11月19日（木）

09:00-09:50 (50) 公開

「限界打破のイノベーション IOWN構想について」

日本電信電話株式会社 常務執行役員研究企画部門長
川添雄彦氏

現在、我々人類が保有しているICT技術は未曾有の危機を予測し人類の明るい未来を実現するためには明らかに不十分であり未熟である。また、インターネットのトラヒックやIoTデバイスで扱われる通信量は増加の一途をたどっている。そして、今回のCovid-19で、さらに加速している。そのため持続可能な技術革新に向けてICT基盤全体の革新を目指すIOWN構想を発表した。本講演では、ネットワーク構想「IOWN」、その具体的な進捗について、ご紹介する。

09:50-11:20 (90)

「大改正 発信者情報開示請求」

総務省総合通信基盤局 電気通信事業部消費者行政第二課長 小川久仁子氏

東京大学大学院 法学政治学研究科 教授 宍戸常寿氏

戸田総合法律事務所 弁護士 中澤佑一氏

読売新聞 編集局 編集委員 若江雅子氏

英知法律事務所 弁護士 森 亮二氏

11:20-12:05 (45) 公開

「コロナ時代のサイバー攻撃」

NTTチーフ・サイバーセキュリティ・ストラテジスト
松原実穂子氏

新型コロナウイルスの感染拡大に乘じ、医療機関や研究機関・学校へどのような手口のサイバー攻撃が何を目的として行われているか説明する。また、今年の米国大統領選挙が、新型コロナウイルスの感染拡大の中、リモートでサイバーセキュリティを確保することとなり、どのような新たな課題や脅威が出てきたのかについても議論したい。

12:05-13:00 (55) お昼休憩：お弁当は事前にご注文された方だけの配布となります。

13:00-14:30 (90) 一部公開

「2020年のabuse対応を取り巻くよもやま話

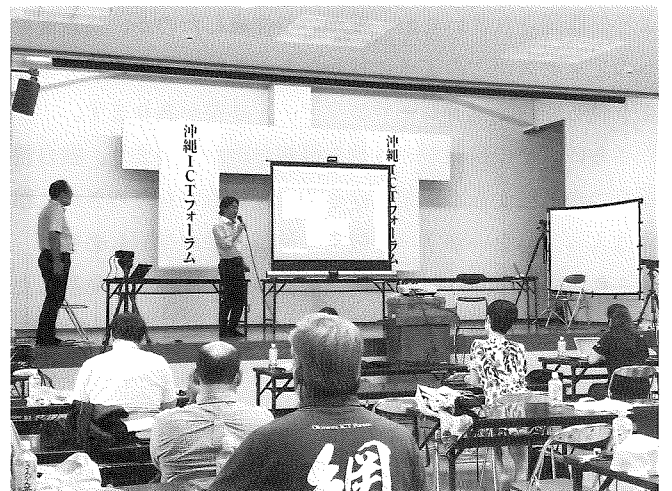
～発信者情報開示・フィッシング対応・コロナ関連～

さくらインターネット株式会社 山下健一氏

ICT-ISAC SoNAR-WG 主査代行 藤原 豊氏

NTTコムエンジニアリング株式会社 近藤和弘氏

今年もabuse対応に関しいろいろな話題がありました。各社でabuse/セキュリティ対応を行っている4人のそれぞれの立場で今年のabuse対応を概観し振り返ります。



14:30-15:00 (30) 一部公開

「ICT-ISACの観測システムを使用した取組」

～観測から見たことと対応課題について～

一般社団法人ICT-ISAC 事務局次長 齊藤和典氏

ICT-ISACでは、様々な観測システムを運用しています。観測システムとその観測結果の一例を紹介するとともに観測結果を利用するにあたっての課題について説明します。



15:00-15:45 (45) 公開

Holistic Security for a Connected Society and Local 5G

Dr. Anand R. Prasad, wenovator LLC.

Holistic Security：近年、新しく広まりつつあるセキュリティの考え方で、パッチワークセキュリティと対極に包括的なセキュリティ、全体的セキュリティと言われる。セキュリティを担保するためには個々の機能を高セキュリティ化するのではなく全体を通してセキュリティデザインをおこなうという考え方の解説とLocal 5Gのセキュリティについて解説します。



11月20日 (金)

09:00-09:50 (50)

「久米島の戦争遺跡について」

久米島博物館友の会 会長 佐久田勇氏

09:50-10:35 (45)

「超小型EVによる観光MaaS事業」

豊田通商株式会社 ネクストモビリティエレクトロニクス事業部 プロフェッショナルマネージャー 浅井 靖氏

豊田通商が取り組んでいる久米島／仙台における超小型EVによる観光MaaS事業の狙いなどについてご紹介いただきます。

10:35-11:20 (45) 公開

IoT・5G 総務省のセキュリティ政策

総務省 サイバーセキュリティ統括官室[®]
参事官 高村 信氏

11:20-12:00 (40)

「NTTコミュニケーションズがサイバー攻撃を受けた件」

不正アクセスを行った攻撃専門集団は、高度な技術力と本格的な体制を持っていました。我々もギアチェンジをしないと太刀打ちできない相手です。本セミナーでは不正アクセスへの対応で感じた「危機感」を共有させていただきます。

12:00-13:00 (60) お昼休憩：お弁当は事前にご注文された方だけの配布となります。

13:00-13:50 (50)

「それは本人の問題だから。～ネット上のサービスとKYCを巡る諸問題～」

立命館大学 情報理工学部 教授 上原哲太郎氏

13:50-14:30 (40)

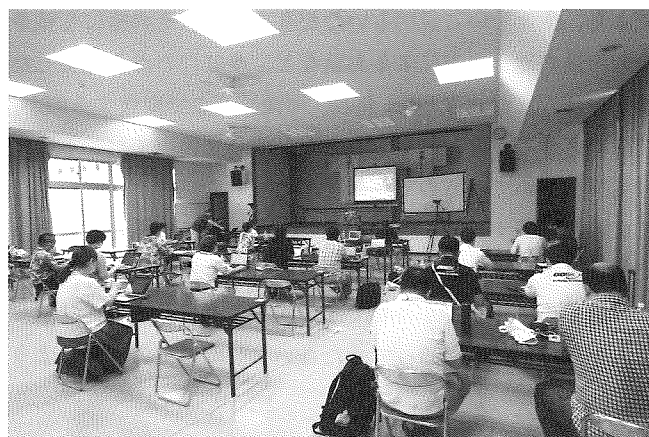
「久米島観光案内」

一般社団法人久米島観光協会 事務局長 上原一晃氏

14:30-16:00 (90)

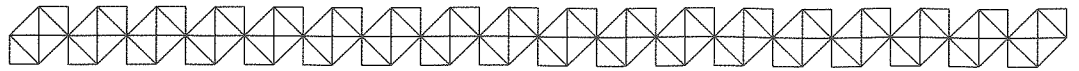
「中立性+ブロードバンド基盤の在り方に関する研究会関係」

英知法律事務所 弁護士 森 亮二氏
中央大学 総合政策学部 教授 実積寿也氏
JAIPA 副会長 立石聡明氏



■プログラム委員会

小林洋子 (委員長)
小山 覚 (副委員長)
立石聡明
小畑至弘

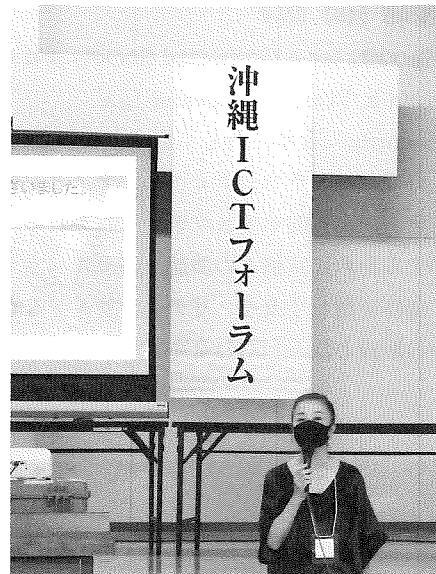


村田篤紀
秋山卓司
宮内正久

■概要

新型コロナウイルス感染症により、開催も危ぶまれましたが開催要望が強くあり人数制限をしての開催となりました。ちょうど久米島開催時に第三波といわれる状況だったのでギリギリの開催だったと思います。参加者は55名（現地参加46名 講師リモート参加9名）です。受付では検温、アルコール消毒、こまめに換気などをして、コロナ対策をしました。今回はオンラインでの視聴も取り入れましたが、準備が不十分で最初の講演は不具合が多く、途中でも回線が切れたりと反省点が多く沖縄開催に限らず他のイベント開催でのオンライン開催の課題提起になったかと思います。

プログラムは上記の通り、日本電信電話株式会社の「限界打破のイノベーション IOWN構想について」を基調講演として最新の情報をお話いただき、昨今の課題となっている発信者情報開示請求を官民両方からの発信とディスカッション、この問題に最初から携わってきている森弁護士にモデレータをお願いするなど、わかりやすい解説と活発な意見交換が繰り返されました。前日のセキララ会から引き続き、防衛省からNTTへ転身した松原さんによる避けて通れないコロナ時代のサイバー攻撃の話、NTTコミュニケーションへのサイバー攻撃を受けた件を情報セキュリティ部長の小山氏より、生々しいご説明もいただきました。その他にも戦争や久米島の地元の方によるお話など、多岐にわたり充実したフォーラムとなりました。毎回、沖縄のどこで開催するのか、開催できるのか等、終了すると即反省会と次回イベントに向けて話を進めているのですが、このコロナ禍により先が見えてない状況です。しかし何らかの形で続けていきたいと思っておりますので、お知らせを待っててください。毎年締め言葉で小林洋子様沖縄でする意義、この沖縄ICTフォーラムを続ける想いを語っていただきましたのでご案内しよう



と思います。

東京から遠く離れた沖縄で普段語られない情報を発信・交換、共有をしていくということ。そして沖縄、琉球王朝を終わらせてしまった我々、太平洋戦争・第二次世界大戦のとき島民の1/4が亡くなってしまった。今は基地問題で沖縄の住民の忍耐のもと我々の安全保証が保たれているという現実を再度認識すること。なにより戦争の経験、リアルな話を聞くことによって私たちが通り越してしまっている事実、我々の親の世代が経験している話を聞くことが大切である。佐久田さん（「久米島の戦争遺跡について」をご講演）からもお話があったが情報操作のこわさ、洗脳社会の恐ろしさを実感して我々ネットワークにかかわるものが守らなくてはならないものは何か、ぶれてはいけないものは何なのか、今一度確認するそういう機会にしたかった。水際を守る現場の皆さんがしっかりしていれば大丈夫。ぶれないことを年に一度確認する場としたい。今回のフォーラムでも確認できたのではないかと思います。ぜひ、次回も沖縄ICTフォーラムへのご協力をよろしく願いたします。(M)

JAIPA Cloud Conference 2020 開催レポート

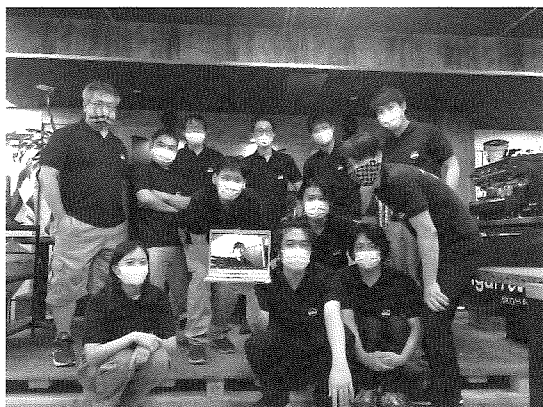
JAIPA Cloud Conference 2020 実行委員長

請園 薫

2020年9月2日（水）、クラウド部会主催の「JAIPA Cloud Conference 2020」（以下、クラコン）を開催し、盛況のうちに終了いたしました。

クラコンの開催は今回で8回目となりましたが、初めてオンラインでの開催となり、会員各社の若手社員を中心にした組織で大きな変革に挑戦した年でありました。

本稿では、簡単にではありますがイベント当日の様子やイベント準備の裏側をレポートいたします。



JAIPA Cloud Conference 2020実行委員

事前申込登録者数	1,008名
累計視聴数	1,005名
ピーク時視聴数	376名
満足度	98.4%
首都圏以外の申込	18.6%
スポンサー	34社
後援団体	20団体
メディアスポンサー	6媒体

クラコンでは、過去最大の申込数となり、初めて1,000名を超えるお申込みを記録いたしました。特にオンラインでの開催により地理的な制約がなくなったことから、例年に比べ首都圏以外のお申込みが前年比10%以上増加した点が特筆すべき点であったと思います。

開催に向けたチームを2019年12月に立ち上げて以降、2020年4月に急遽オンライン開催への舵を切った中で、開催まで多大なるご協力を頂きました、スポンサー企業の皆様、関連団体の皆様、企画委員の皆様にはこの場をお借りして御礼申し上げます。

イベント概要

名称	JAIPA Cloud Conference 2020
URL	https://cloudconference.jaipa.or.jp/
日時	2020/9/2（水）
開催形態	オンライン（参加費無料）
主催	一般社団法人 日本インターネットプロバイダー協会 クラウド部会
後援	総務省、経済産業省、関連団体
ストリーミングサポーター	J-Stream株式会社 Kee's株式会社 SBクラウド株式会社 株式会社ネットフォレスト

実績と振り返り

関係者皆様のご協力により、Covid-19の世界規模の感染拡大による影響がありながらも、無事にオンラインでの開催を実施することができました。

なお、反省点として以下が挙げられます。

- ・アンケート回収率の向上
- ・視聴者情報の取得

こうした反省点に関しては、JAIPA Cloud Conference 2021の実行委員に引き継ぎを行っております。

例年よりも1時間早く開会したイベントは配信開始時から多くの方々に視聴いただき、総務省セッション開始時には300名近くの同時視聴数を記録しました。

昨今の状況から最も関心が高いと思われた経済産業省のDXに関する講演では350名を超える方々に同時視聴を頂き、その後は安定して300名ほどの方々に視聴いただきました。

正確なデータはありませんが、オフラインで開催する場合と比較して、より多くの方々にコンテンツをお届けすることができたのではないかと思います。

また、コンテンツとしてはCovid-19の流行に伴う影響という切り口のセッションが多くなりましたが、行政、法律、セキュリティ、若手社員、経営者等多様な切り口での講演が一度に聞ける場として、参加者の方々にはご満足いただけたの

レポート



09:00▶09:05	開会挨拶 一般社団法人 日本インターネットプロバイダー協会 クラウド部会 副部長 兼 さくらインターネット株式会社 代表取締役 田中 邦裕
09:05▶09:45	総務省：「政府情報システムのためのセキュリティ評価制度（ISMAP）について」 総務省 サイバーセキュリティ統括官室 参事官補佐 横澤田 悠 氏
09:55▶10:45	経済産業省：「New Normalの観点から可視化されるDX推進の本質と政策展開」 経済産業省 商務情報政策局アーキテクチャ戦略企画室長 兼 ソフトウェア・情報サービス戦略室 和泉 憲明 氏
10:45▶11:05	スポンサー：「どうしてNew Normal時代はクラウドネイティブが重要なのか」 デル・テクノロジーズ株式会社 日本 最高技術責任者 黒田 晴彦 氏
11:15▶11:55	セキュリティ：「新型コロナへの対応による、セキュリティへの影響・対策」 一般社団法人JPCERTコーディネーションセンター早期警戒グループ脆弱性アナリスト 石井 泰鷹 氏
11:55▶12:15	スポンサー：「モダン・データ・インフラストラクチャですべてをシンプルに」 ●ピュア・ストレージ・ジャパン株式会社 市場開発部 部長 藤井 洋介 氏 ●ピュア・ストレージ・ジャパン株式会社 プリンシパル・システムズ・エンジニア 岩本 知博 氏
12:45▶12:55	JAIPAのご紹介 一般社団法人日本インターネットプロバイダー協会クラウド部会 副部長 兼 KROW株式会社 代表取締役社長 宮内 正久 氏
12:55▶13:55	法律：「コロナ時代の法律実務」 虎ノ門南法律事務所 上沼 紫野 氏
13:55▶14:15	スポンサー：「ハイブリッドクラウドの有効活用と実現性を考える」 ヴィーム・ソフトウェア株式会社 ソリューションアーキテクト 高橋 正裕 氏
14:25▶15:15	5G：「5Gはビジネスを変えるのか？」 トヨタ自動車株式会社 コネクティッドカンパニー コネクティッド先行開発部InfoTech 主幹&AECC Board of Directors Alternative 竹岡 航司 氏
15:15▶15:55	若手社員パネルディスカッション：「テレワークの実践と現場感」 【モデレーター】 一般社団法人スピーチコミュニケーション協会理事 株式会社KEE'S取締役副社長 会田 幸恵 氏 【パネリスト】 ●GMOグローバルサイン・ホールディングス株式会社 営業部 高松 遼平 氏 ●ハルト株式会社 取締役 高崎 翼 氏 ●株式会社アクティブ アンド カンパニー 営業チーム長 栗山 凌 氏 ●株式会社タイミー 人事 佐藤 柚花 氏
16:05▶17:35	経営者パネルディスカッション：「コロナ時代のリーダーシップ」 【モデレーター】 一般社団法人スピーチコミュニケーション協会理事 株式会社KEE'S取締役副社長 会田 幸恵 氏 【パネリスト】 ●GMOグローバルサイン・ホールディングス株式会社 代表取締役社長 青山 満 氏 ●さくらインターネット株式会社 代表取締役社長 田中 邦裕 氏 ●NTTコミュニケーションズ株式会社 取締役 プラットフォームサービス本部 データプラットフォームサービス部長 佐々倉 秀一 氏 ●合同会社DMM.com CTO 松本 勇氣 氏
17:35▶17:40	閉会挨拶 一般社団法人 日本インターネットプロバイダー協会 クラウド部会 部長 兼 GMOグローバルサイン・ホールディングス株式会社 代表取締役社長 青山 満

ではないかと思えます。(アンケート満足度98.4%)

クラコン2020実行委員会

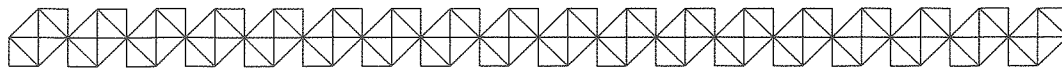
2020年のクラコンでは直接集まるのが難しい中、ほぼ初対面の各社実行委員とオンライン会議を重ね、準備を実行してきました。

本来、クラコンはクラウド関連事業者やユーザに対して、新しいビジネスや各社の経営計画のヒントとなるコンテンツを届けるだけでなく、JAIPA会員企業の同業、同世代が繋

がり刺激を与え合う場でもあります。

直接つながりを作る機会が少なくなってしまったこと、申し訳ありません。そして、このような大変な状況下で通常業務をこなしながら、一緒に挑戦して下さった実行委員の皆様、実行委員メンバーを選出していただいた企業の皆様には、改めてこの場を借りて御礼申し上げます。

今回の経験を通常業務に活かすとともに、願わくば、またクラコンに携わっていただき、クラウド部会を盛り上げていただけることを期待しております！



クラコン2020実行委員一覧

実行委員名	会社名	担当
請園 薫	GMOグローバルサイン・ホールディングス株式会社	実行委員長
新井 翔太	株式会社ネットフォレスト	副実行委員長
吉村 真輝	SBクラウド株式会社	副実行委員長
左部 真也	エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社	スポンサー
陽田 彩美	エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社	スポンサー
岩下 佳由	GMOグローバルサイン・ホールディングス株式会社	スポンサー
末成 彩佳	株式会社Geolocation Technology	Web
田中 一也	エヌ・ティ・ティ・ビズリンク株式会社	Web
中村 哲雄	エヌ・ティ・ティ・ビズリンク株式会社	プログラム
石井 泰鷹	一般社団法人JPCERTコーディネーションセンター	プログラム
高松 遼平	GMOグローバルサイン・ホールディングス株式会社	広報
熊本 豊	ミテネインターネット株式会社	ライブ配信アドバイザー
寺尾 英作	SBクラウド株式会社	ライブ配信アドバイザー

開催までの軌跡

	日程	場所
第1回	1/14 (火) 17:00—	JAIPA
第2回	2/4 (火) 17:00—	JAIPA
第3回	3/3 (火) 18:00—	オンライン
第4回	4/7 (火) 18:00—	オンライン
第5回	5/12 (火) 18:00—	オンライン
第6回	6/2 (火) 18:00—	オンライン
第7回	7/7 (火) 18:00—	オンライン
撮影	8/3 (月) 終日	Softbank
撮影	8/4 (火) 終日	Softbank
第8回	8/4 (火) 18:00—	Softbank/オンライン
撮影	8/5 (水) 終日	Softbank
撮影	8/11 (火) 終日	Softbank
撮影	8/17 (月) 15:00—	オンライン
撮影	8/19 (火) 7:30—	オンライン
撮影	8/25 (火) 18:00—	オンライン
第9回	8/26 (水) 18:00—	オンライン
リハーサルtake1	8/31 (月) 終日	Bangarrow
リハーサルtake2	9/1 (火) 終日	Bangarrow
当日	9/2 (水) 終日	Bangarrow

次回開催について

クラウド部会では、現在JAIPA Cloud Conference 2021の開催に向けて、実行委員会を発足し、企画の検討を行っています。

2020年をさらに超えるようなコンテンツを、より多くの皆様にお届けできるよう、2021年も皆様のご支援、ご協力を是非ともよろしくお願いいたします。

開催時期：2021年9月2日（木）

会場：オンライン開催予定

テーマ：WithコロナとDX推進から見る

New Normal最前線（仮）

以上



(1) 行政法律部会

昨年度はプロバイダ責任制限法の発信者情報開示制度に関する議論がほとんどの1年間でした。

発信者情報開示制度は被害者側、プロバイダ側双方に負担の大きい手続であり、また、投稿時のIPアドレスを保存していないSNSの存在など、現行法で対応が難しい事例も増えてきたことから、2020年4月に総務省に研究会が立ち上げられました。ところがその後、ネットでの誹謗中傷が大きな社会問題となる出来事があり、発信者情報開示制度が誹謗中傷対策の意味で大きく扱われ、世の中の注目を集めるテーマになりました。

当部会では、権利侵害の被害者の円滑な救済と、表現の自由全般への萎縮効果のバランスを特に考えながら、研究会での発表や、意見の提出などに取り組んできました。その過程で、現行制度の手続き上の問題点なども指摘できたと思います。

すでに改正法案が国会に提出され、2022年度中には新たな裁判手続きの導入など、大きな変化がある見込みです。今年度も引き続き実務上の課題の整理などを中心に、取り組んでいくことになると思います。

発信者情報開示に限らず、プロバイダの実務的な問題点や悩みなども議題になっています。総務省の担当課をゲストに招いたりもしていますので、気軽にご参加ください。

部会長 野口 尚志

(2) 地域ISP部会

新型コロナウイルス感染症による様々な影響の中、会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか。

日本において、1例目の新型コロナ感染者が報告された「2020年1月16日」から1年以上経過しました。

社会、経済、人命などに及ぼす影響の大きさから大災害にたとえられています。

大災害といえば「東日本大震災」が3月11日で10年となりました。

3.11では物理的に物が破壊され、物資が不足し、人々の移動ができなくなりました。

新型コロナウイルス感染症では、感染拡大防止の為に人々

の移動が制限されています。

「インターネットは距離と時間をなくすのも」

大規模災害時におけるインターネットの有効性は3.11で広く認知されました。

現在、新型コロナウイルス感染症により、リモートワーク、リモート授業、WEB会議等々……

インターネットが利用出来なければ、社会生活が成り立たない状況となっています。

3.11では通信設備障害や停電などでインターネットの安定利用に大きな影響が出ました。

今回は物理的な障害が無い中。

数年前からOSのアップデートファイル配信、オンラインゲーム、動画や音楽配信サービス、地上波の同時又は再配信サービス等々、いろいろなサービスがインターネットで流れ、品質の悪化などの問題になっていました。

そこに、新型コロナウイルス感染症による利用増でインターネットの安定利用に大きな影響が出始めています。

そして、文科省のGIGAスクール構想により4月以降に950万台を超える情報端末のインターネット接続！

今年も課題が山積しています。

地域ISP部会は、他の部会と連携を取りながら諸問題の解決に取り組んでいきます。また、地域ISP部会ならではの情報発信と提案を行っていきます。

2021年も地域ISP部会にご期待ください。

部会長 晋山 孝善

(3) インターネットユーザー部会

昨年のインターネットユーザー部会は、総務省の開催する「消費者保護ルールの在り方に関する検討会」や「消費者保護ルール実施状況のモニタリング定期会合」等の研究会での議論と共に利用者視点に立って勧誘やインターネット利用に



ついて議論や対応を行ってきました。コロナ禍において営業自粛が余儀なくされる中、インターネットが生活や教育に必要なものとなり、その在り方を見直されております。安心・安全に利用できるインターネット環境の実現に向けて各々が出来る事の共有や疑問の解決を行ってきました。昨年は総務省の指導が多い1年でありましたが、その対象はJAIPA等の団体に属さない事業者へのものばかりでした。総務省ではアウトサイダーへの対応として事業者団体への参加をインセンティブやサンクションを伴うものに行うとする議論がされております。苦情相談の縮減に向けた対応について議論や対応を行っていく事となると思います。何方様の参加を歓迎いたしますのでお気軽にお声がけ下さい。また、昨年中には実行出来ませんでした。先日、消費者団体との勉強会をオンラインで実施いたしました。機材トラブルに見舞われ、大変ではありましたが消費者団体の方々にも喜ばれまして、来年度も実施していきたいと考えております。

運営メンバー 高木 大一郎

(4) クラウド部会

2020年初頭から始まったコロナの影響は、社会を大きく一変してきました。そのような中、社会生活の維持に、クラウドをはじめとするICTの技術が大きな下支えになっていると自負しております。

ちょうど、東日本大震災から10年が経ちますが、10年前には、今日行えているこのようリモート中心での業務対応も難しかったと推測しております。あれから10年、幾多の災害などを苦難を教訓に準備してきたことにより、この困難なウイルスにも完全ではないですが対応することができたのではないのでしょうか。2018年7月にクラウド部会主催で開催しましたJAIPAクラウドカンファレンスで、当時、最先端の働き方をしている企業をお招きしてパネルディスカッションを行いました。これらの企業では、リモートを当たり前に行っていましたが、当時のアンケートなどでは、「当社でのリモートワークでの業務は難しいな」という諦めの声にあふれていました。コロナウイルスの脅威で一気にリモートワークが進みました。これを「機会」と前向きにとらえ、クラウド技術を基盤に進歩に貢献していきたいと考えております。

またクラウド部会は、ホスティング部会とセキュリティ部

会が合同してクラウド部会になりました。セキュリティの観点では、日々のセキュリティの脅威だけでなく、リモートワークに変化したことにより、これまで前提としていたネットワーク構成が変わり、会社の情報セキュリティの観点で前提から大きく見直さないといけない一年でした。

課題も多く感じた一年ではありますが、着実な進歩のおかげで乗り切れた一年でも感じております。ニューノーマルと言われるこの状況がどのように変化しても機敏に対応していけるように、日々、部会に参加していただいている会員企業の皆様を中心に情報交換、検討を通し、準備していきたいと思っております。

副部会長 宮内 正久

(5) 女性部会

■2020年活動報告

女性部会では、個人や会員企業が自社の価値観や殻に閉じず、視野を広く持ち知見を得ることで、新しい可能性の発見やそれによって得られる成果を情報発信し、自己や自社、さらにはJAIPAや業界全体・社会全体に貢献していくことを目標・目的に活動してまいりました。

具体的には、新しい「JAIPA女性部会の在り方」について検討を深め、「キャリア・育成」「IT通信系」「社会時事系」「企業働き方」という4ジャンルについて、インターネット業界における実情を情報発信していくべく、各種の企画・施策を検討推進している途上です。

2020年は「家庭・自宅側からみたテレワークの実態について」をテーマにアンケートを実施し、159件の回答をいただきました。ご協力いただきました皆さま、ありがとうございます。

2021年は、このアンケート結果について、検証のためのディスカッションを行う計画を立てております。

またさらに、コロナ禍により1年以上経過したテレワークの現状について、再度のアンケートも計画予定となっております。

引き続きオンラインでの講演や勉強会も開催できればと考えております。自薦他薦、テーマ問いませんので、ご登壇い



ただける方を募集しています。どうぞよろしくお願いたします。

〈主な活動〉

◎アンケート「家庭・自宅側からみたテレワークの実態について」実施

- ・目的：働く本人目線にて、テレワークで困ったこと・よかったことなどを問い、実態を収集して課題を可視化し、企業や個人へのフィードバックをする
- ・期間：2020年11月9日(月)～11月30日(月)
- ・結果：別途、集計内容をご報告させていただきます。

◎オンライン講演「インバウンド観光客から見えるニッポン～日本のおもてなしとは?～」実施

外国人向け観光ガイドとして活躍されているJAIPA名誉会員の古関氏を講師にお招きし、オンラインにて実施いたしました。

- ・講師：古関義幸氏（JAIPA名誉会員）
- ・日にち：2020年8月27日(木) 20：00～
- ・場所：ZOOMリモート
- ・内容：外国人向け観光ガイドの経験から、インバウンドから見える日本についておもしろおかしくお話していただきました。毎日ボーっと生きている日本人のための、日本について考えるセミナー。

◎エグゼクティブトークオンライン

毎年クリスマスの時期に恒例となっておりました女性部会主催のエグゼクティブトークを、今回は初代女性部会長 小林洋子氏をゲストにオンラインにて、お酒片手にで開催いたしました。

- ・日時：2021年3月25日(木) 17：00～18：00、18：00～懇親会および質疑応答
- ・登壇者：小林洋子氏（JAIPA名誉会員）
- ・司会：井口和彦（女性部会長）

部会長 井口 和彦

(6) モバイル部会

モバイル部会では、MVNOや5G等モバイルに関わる事項について、マーケット・業界動向や技術、制度等幅広いテ-

マについて、基本的に月1回の部会を開催して意見交換や議論を行っています。

2020年度は新型コロナの影響でオンライン開催中心となりました。部会では「ニュースダイジェスト」として毎月その1ヵ月で報道されたニュースを紹介しつつ、ニュース内容について情報交換や議論を行っています。また、加えて、メンバーの興味ある分野について外部から講師を招いて勉強会も実施しています。2020年度のテーマは「クラウドSIM」「会議をもっと生産的に変える」「総務省の通信行政と携帯電話料金」「RPAのホントと活用」等様々なテーマを取り上げました。

部会に加えて、モバイル部会ではメンバー間の交流ならびに集中的に議論をするため、大自然に囲まれた場所で二泊三日程度で実施する「夏合宿」や海外の事業者や業界団体、政府機関との意見交換を行う「海外調査」等の活動も行っていきます。2020年度では残念ながらこれらの活動は実施できませんでしたが、2021年度は新型コロナの収束状況をみつつ再開できることを願っています。

モバイル部会ではこのように幅広く活動を行っていますので、モバイルサービスを既に提供している会員の方だけでなく、これからモバイルの新サービスを検討しようとしている方、モバイルに興味のある方等歓迎しますので、ぜひ気軽に参加してみてください！

部会長 北村 和広

新型コロナになってからのJAIPA事務局は原則テレワーク体制となっています。MicrosoftのTeamsとソフトバンクのUnitalkとい電話システムを導入し、内部連絡はチャット、資料はTeamsのサーバー上、会議はTeamsかZoomのオンラインで、電話は外線着信はスマホで着信、内線転送もスマホです。

とはいっても、徳島県在住の立石副会長以外は時々は事務所にきて仕事をしています。皆週に2、3日でしょうか。請求書の受け取りや銀行での支払処理などはどうしても事務所でないといけないものですから。ただ、会員の中には請求書の発行も含め電子化するところも出てきました。

部会やワーキンググループはオンライン。以前から使っていたZoomかTeamsです。総務省との会議は先方からSkype for Businessを指定してくることもあります。総務省の会議はすべてSkype for Businessです。会議構成員の中にはまれにリアルに参加する人もいますが。

昨年末から一部リアルも併催の部会も始まりました。会議室はほぼ使われていません。資料はすべて電子配布なので、紙とコピー機の利用が最低レベルの基本料金にとどまっています。会議参加者にお出ししている水も出ないので、消耗品費は大幅少なくなりました。

昨年7、8月ごろは総務省の会議もなくして仕事の余裕があったんですが、秋からいろいろな研究会でプレゼンや意見書やらが増え、また各種の「要請」とかもあり、忙しくなっていました。

ちなみにJAIPAの事務局は役員の立石副会長を除き、職員は常勤2名と出向1名の体制です。電気通信関連4団体と並び称される他の団体は聞いてみたら、他は常勤は8名とか9名とか40名と段違いに多いので驚きました。それぞれやっている仕事は同じではありませんが、総務省からの要請とか依頼とかは4団体に同じに来ていることを考えるといかにJAIPAが少数の（精鋭とは言いませんが）体制で運営されているかご理解いただけますでしょうか。これ以上書くと愚痴になりそうなので、今回はこのあたりにしたいと思います。

【INFORMATION】

- ISPサービスの販売目的を隠匿した勧誘手法への注意 (2021/1/15)
<https://www.jaipa.or.jp/topics/2021/01/ftth.php>
- 「文部科学省GIGAスクール構想への支援サイト」の公開について (2021/3/12)
<https://www.jaipa.or.jp/topics/2021/03/giga.php>

【意見書提出】

- インターネット上の誹謗中傷への対応の在り方についての意見書を提出 (2020/7/24)
https://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01kiban18_01000086.html
- 発信者情報開示の在り方に関する研究会中間とりまとめ (案) に対する意見書を提出 (2020/8/13)
https://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01kiban18_01000088.html
- 電気通信事業における個人情報保護に関するガイドライン解説の改正案に対する意見書を提出 (2020/9/30)
https://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01kiban18_01000099.html
- 発信者情報開示の在り方に関する研究会 最終とりまとめ (案) に対する意見書を提出 (2020/12/4)
https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/kenkyu/information_disclosure/02kiban18_02000120.html
- 電気通信事業分野における競争の促進に関する指針」の改定案に関する意見書を提出 (2020/12/8)
https://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01kiban03_02000678.html

行事一覧

4月

- 1日(水) 第98回クラウド部会
- 7日(火) 第195回行政法律部会
- 14日(火) 女性部会
- 17日(金) 第54回モバイル部会
- 21日(火) 第138回運営委員会
- 23日(木)～24日(金)
(中止)JAIPAの集いin松山
- 22日(水) 第149回インターネットユーザー部会

5月

- 12日(火) 第196回行政法律部会
- 13日(水) 第99回クラウド部会
- 18日(月) 第150回インターネットユーザー部会
- 19日(火) 2020年度第1回理事会
- 21日(木) 第187回地域ISP部会
- 29日(金) 第55回モバイル部会

6月

- 2日(火) 第197回行政法律部会
- 3日(水) 第100回クラウド部会
- 12日(金) 定時総会(リモート開催)
- 15日(月) 第151回インターネットユーザー部会
- 22日(月) 第188回地域ISP部会
- 25日(木) 第56回モバイル部会
- 22日(月) 第121回女性部会

7月

- 1日(水) 第101回クラウド部会
- 7日(火) 第198回行政法律部会

- 20日(月) 第152回インターネットユーザー部会
- 21日(火) 第139回運営委員会
- 22日(水) 第189回地域ISP部会
- 30日(木) 第122回女性部会

8月

- 4日(火) 第199回行政法律部会
- 5日(水) 第102回クラウド部会
- 18日(火) 第190回地域ISP部会
- 18日(火) 第140回運営委員会
- 25日(火) 第57回モバイル部会
- 26日(水) 第153回インターネットユーザー部会
- 27日(木) 第123回女性部会&勉強会

9月

- 2日(水) CloudConference2020
- 4日(金) 第200回行政法律部会
- 15日(火) 第141回運営委員会
- 23日(水) 第58回モバイル部会
- 24日(木) 第191回地域ISP部会
- 29日(火) 第154回インターネットユーザー部会

10月

- 5日(月) 第201回行政法律部会
- 7日(水) 第103回クラウド部会
- 20日(火) 2018年第2回理事会
- 21日(水) 第192回地域ISP部会
- 26日(月) 第125回女性部会
- 29日(木) 第155回インターネットユーザー部会
- 30日(金) 第59回モバイル部会

11月

4日(水) 第202回行政法律部会

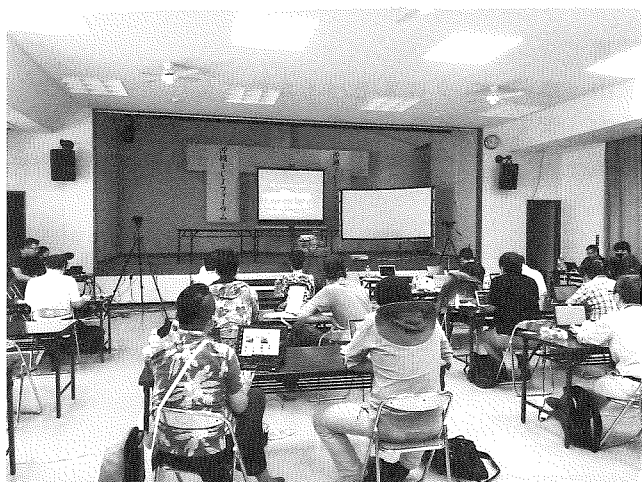
4日(水) 第104回クラウド部会

13日(金) 第193回地域ISP部会

27日(火) 第142回運営委員会

19日(木)~20日(金)

沖縄ICTフォーラム2020in久米島



27日(火) 第126回女性部会

25日(水) 第156回インターネットユーザー部会

27日(金) 第60回モバイル部会

12月

2日(水) 第105回クラウド部会

3日(木) 第203回行政法律部会

15日(火) 第143回運営委員会

16日(水) 第194回地域ISP部会

23日(水) 第61回モバイル部会

23日(水) 第127回女性部会

24日(木) 第157回インターネットユーザー部会

1月

6日(水) 第106回クラウド部会

13日(水) 第204回行政法律部会

21日(木) 第195回地域ISP部会

26日(火) 第158回インターネットユーザー部会

28日(木) 第128回女性部会

29日(金) 第62回モバイル部会

2月

3日(水) 第107回クラウド部会

8日(月) 第205回行政法律部会

16日(火) 第144回運営委員会

17日(水) 第196回地域ISP部会

19日(金) 第63回モバイル部会

24日(水) 第159回インターネットユーザー部会

25日(木) 第128回女性部会

3月

3日(水) 第108回クラウド部会

8日(月) 第206回行政法律部会

23日(火) 2020年度第3回理事会

25日(木) 第197回地域ISP部会

26日(金) 第160回インターネットユーザー部会

役員一覧

会長

会田 容弘 ソニーネットワークコミュニケーションズ株式会社

副会長

佐々倉 秀一 NTTコミュニケーションズ株式会社
 西山 裕之 GMOインターネット株式会社
 立石 聡明 有限会社マンダラネット

専務理事

立石 聡明 有限会社マンダラネット

常任理事

萩原 正也 ニフティ株式会社
 小畑 至弘 BizMobile株式会社
 鎌倉 忍 ディーシーエヌ株式会社
 久保 真 ビッグロブ株式会社
 晋山 孝善 ジェットインターネット株式会社
 濱谷 規夫 ソフトバンク株式会社
 田中 邦裕 さくらインターネット株式会社
 辻 大志 KDDI株式会社
 永田 勝美 株式会社NTTぷらら
 横田 洋人 株式会社アットアイ

理事

植田 裕之 株式会社ネットフォレスト
 萩堂 盛修 株式会社TOKAIコミュニケーションズ
 竹内 勝幸 株式会社シナプス
 中野 雄一 株式会社エヌディエス
 中山 いその 株式会社フューチャーネットワークス
 野口 尚志 EditNet株式会社
 福智 道一 BBIX 株式会社
 本間 誠治 株式会社新潟通信サービス
 松岡 伸介 合同会社 double A one
 松本 昇 株式会社シーエスファーム
 村田 篤紀 合同会社DMM.com

監事

秋山 卓司 クロスモバイル株式会社
 竹内 常夫 虹ネット株式会社
 林 一司 アルテリア・ネットワークス株式会社

(2021年3月20日現在)

名誉会長

渡辺 武経

会員一覧

■正会員 [141団体]

株式会社アイエフネット	インターネット・フューチャー株式会社	株式会社大塚商会
株式会社IMS	インターネット・プロ東海株式会社	大槻電気通信株式会社
株式会社アイキューブ・マーケティング	株式会社インターリンク	株式会社オキッド
株式会社IC-NET	エキサイト株式会社	カゴヤ・ジャパン株式会社
株式会社IDCフロンティア	株式会社STNet	関越ネットワークシステム株式会社
株式会社アインシス・ジャパン	SBクラウド株式会社	株式会社KEE'S
AXLBIT株式会社	株式会社エディオン	特定非営利活動法人きたうら花ねっと
株式会社朝日ネット	EditNet株式会社	株式会社クオリティア
株式会社アットアイ	株式会社エヌディエス	株式会社クララオンライン
株式会社アット東京	株式会社エヌ・ティ・ティ エムイー	KROW株式会社
アミック株式会社	NTTコミュニケーションズ株式会社	株式会社グローバルネットコア
株式会社有明ねっとこむ	エヌ・ティ・ティ・スマートコネクト株式会社	株式会社クロストラスト
アルテリア・ネットワークス株式会社	株式会社NTTドコモ	クロスモバイル株式会社
イーブロードコミュニケーションズ株式会社	株式会社NTTPCコミュニケーションズ	株式会社クロノス
イエスネット株式会社	NTTビズリンク株式会社	KDDI株式会社
イツ・コミュニケーションズ株式会社	株式会社NTTぷらら	株式会社KDDIウェブコミュニケーションズ
株式会社イプリオ	エヌ・ティ・ティ・メディアサブライ株式会社	株式会社ケー・アイ・ピー
射水ケーブルネットワーク株式会社	株式会社エンボリック	株式会社ケーシーエス
株式会社インターネット尾張	オーシャンブロードバンド株式会社	株式会社高知システムズ

会員一覧

コスモメディア株式会社
彩ネット株式会社
さくらインターネット株式会社
山陰信販株式会社
サンコー事務機株式会社
株式会社サンライズシステムズ
株式会社シーエスファーム
GMOインターネット株式会社
GMOグローバルサイン・ホールディングス株式会社
株式会社ジェイ・エム・イー
ジェットインターネット株式会社
株式会社Geolocation Technology
株式会社シナプス
セイコーソリューションズ株式会社
株式会社創風システム
ソニーネットワークコミュニケーションズ株式会社
ソピアフォンス株式会社
ソフトバンク株式会社
ZOROK株式会社
有限会社たけかわ企画
合同会社 double A one
ダンボネット・システムズ株式会社
中国聯通日本オペレーション株式会社
合同会社DMM.com
ディーシーエヌ株式会社
株式会社TCP
テラクラウド株式会社
株式会社電算
電通工業株式会社
株式会社TOKAIコミュニケーションズ
トナミ運輸株式会社
株式会社トリトン
有限会社ナインレイヤーズ
株式会社長野県協同電算
那須インフォネット株式会社
株式会社NAX
株式会社新潟通信サービス
株式会社西新宿ドットネット
虹ネット株式会社
ニフティ株式会社
日本・アルカディア・ネットワーク株式会社
日本情報システム株式会社
日本ネットワークイネイブラー株式会社
株式会社日本レジストリサービス
株式会社ニューメディア徳島
株式会社ネスク

株式会社ネットアイアールディー
株式会社ネットフォレスト
株式会社ハイネット
PIPELINE株式会社
株式会社ハイホー
BBIX株式会社
株式会社光システム設計
BizMobile株式会社
株式会社日立システムズ
ビッグロブ株式会社
株式会社ヒューメリア
株式会社ファミリーネット・ジャパン
株式会社フィックスポイント
株式会社フォーサイトウェブ
株式会社fonfun
富士通クラウドテクノロジーズ株式会社
株式会社富士通システムズアプリケーション&サポート
株式会社フューチャースピリッツ
株式会社フューチャーネットワークス
フリービット株式会社
ブロックスシステムデザイン株式会社
株式会社北斗システムジャパン
HOYAサービス株式会社
株式会社マイメディア
松本商工会議所
株式会社まほろば工房
有限会社マンダラネット
三井物産セキュアディレクション株式会社
ミテネインターネット株式会社
株式会社ミライコミュニケーションネットワーク
メディアウェイブシステムズ株式会社
株式会社メディアブリッジ 東京支店
ライド株式会社
楽天コミュニケーションズ株式会社
楽天モバイル株式会社
リコージャパン株式会社
株式会社両毛インターネットデータセンター
ワークアップ株式会社

■賛助会員 [6団体]

Office With
国際大学グローバル・コミュニケーション・センター
サイバーソリューションズ株式会社
株式会社ネットライクル
特定非営利活動法人日本テレマーケティング保護協会
日本ネットワークセキュリティ協会

(団体名五十音順) 2021年3月20日現在

名誉会員の小林洋子です。電電公社⇒NTT⇒NTTコミュニケーションズと、42年間働きましたが、昨年メダク卒業して、現在は週3回JAXA、あとは三菱UFJ信託銀行と大林組の社外取締役、それから中央労働委員会の使用者委員をやっている、長いサラリーマン生活がやっと終わった〜！という解放感ゼロの毎日です。

もうすぐ、5月が来たら66歳になりますが、今までの人生の中で一番達成感があったのは2つ、OCNの立ち上げと、四国88ヶ所の歩き遍路です。以下にご紹介します。

■ OCNの立ちあげ

中野支店の法人営業の部長になって1年たった1993年、世の中は皇太子と雅子様のご成婚で湧きあがっていた頃、支店長に呼ばれ『来週の支店長会議で意見言わなきゃいけないんだけど、「クライアント・サーバー方式」って何だ?』と聞かれた。…そんなこと分かる訳ないじゃん。だってそれまでの15年間、法務と広報やってきて技術のギの字もないんだから。でも、知っていることをつなぎ合わせて苦しまぎれに答えた。『えーと、クライアントというのは「客」ですな。で、「サーバー」はつまりサーブする人だから「給仕」ってことで…レストランでコース料理頼むとウェ이터が次々に料理を持ってくる、あの方式のことですね。』

支店長ごめんなさい。きっと支店長会議では恥をかいたんだよね。だからかな、1年後には中野支店からお払い箱になって、本社のマルチメディア推進室というワケのわからない部署に異動になった。しかも支店の部長は本社の課長相当なので、部長から課長への降格人事と思った人も少なくなかった。『小林さん、やっぱ酔っぱらって電柱のぼったのが良くなかったのかな、…いや、酔って郵便局のガラス割ったからかな、まてよ、警察にからんだアレが本社の人事の耳に入ったか』飲み仲間の設備部長は泣いてくれた。法人のお客さまからは『大丈夫だよ、オレなんか何度も左遷されたけど、その都度給料下がっただけだから』となくさめられた。…でもなくさめになってないし。

1994年12月、マルチメディア推進室ではIPサービスを始めるかどうか議論になっていた。着任早々に部課長会議で室長に意見を聞かれた。『現場から来た小林課長の意見も聞きたい。IPの未来はどうだと思う?』。

現場は電話サービスの競争真っ盛りだった。テレジョーズとかテレワイズとか、第二電電のLCRをどう外すかとか。ダイヤルQ²は競争相手が居ない収入源だったので積極販売したが、インフォメーション・プロバイダー (IP) と呼ばれる契約者の多くはヤ○ザ屋さんで、「教育情報提供」で申し込んでおきながら、夜になると「アヘアヘ♡」のエッチな番組を流してボロ儲けしていた。だから、現場にとってIPといえばインターネット・プロトコルじゃなくて(そもそもインターネットという単語を知らなかった)、インフォメーション・プロバイダーなのだ。だから自信をもって答えた。『IPに未来なんかある訳ないじゃないですか。彼らの大半は反社会的集団ですし』。…室長ごめんなさい。

それから2年後の1996年12月25日にOCNは産声を上げた。全国を行脚してインターネットとは何ぞやを語った。ダイヤルアップが主流だった。すべてのMAにアクセスポイントを設置すること、OCNエコノミーは「常時接続」の画期的サービスであることなど。しかし、有識者の先生からは座談会で

『日本の会社はアメリカと違って大部屋なんだからなぜ電子メールをわざわざ使う必要があるのかね。それにアナタねえ、主婦がこんなもの使えると本気で思ってるの?』とコテンパンにされた。社内からも「ベストエフォートなど信頼のおけないサービスはNTTが提供すべきではない」と後ろから石が飛んできた。外からも内からも虐げられたOCNチームの結束は、だからとても固くなった。

それから先にやがて始まるブロードバンド競争は、JAIPAの長老の皆さんがよくご存じなので、涙と笑いのOCN拡大話はここでは割愛し、もう一つの話に移りたい。

■ 四国88ヶ所の歩き遍路

2003年8月から足掛け4年かけて11往復し、「区切り打ち」で四国88ヶ所の遍路道をダンナと2人で1,440km歩いた。始めは納経帳にお寺の御朱印がたまっていくのが嬉しくてスタンブラリー感覚で歩いた。遍路装束で歩くと、現地の方々が「お接待」と称して飲み物や食べ物、時にはお金までくださる(もらえるモンは何でも嬉しい)。90代のおばあちゃんから5歳の子供までそれぞれのお接待をしてくれた。四国の方々の優しさと温かさに背中を押され、やがて本格的に歩き続けることになった。

限られた日程の中で無理をして歩くので、毎回足の爪を数枚失くすことになった。最後の年は38℃を超える日が3日続いた。アスファルトの強烈な照り返しの中、大音量のクマゼミの合唱に包まれて歩いていると、もう何も考えられなくなる。道端で干からびている虫と自分との境界線が薄れ、生きていることと死んでいることとはさほど変わりがないのだという妙な実感すら湧いてくる。

八十八番大窪寺に向かう女体山の峠越えで、もう一歩も歩けなくなった。しゃがんでも横になっても吐き気と頭痛が止まらない。熱中症だ。まさに生死の境目でそれでも大窪寺にたどり着けた時には、涙がたらたらと出た。得たものはとても大きかった。

以上、自分史の中で胸を張れる2つのことをご紹介致しました。これから先の計画は、70歳になったら日本酒の小さなお店を開くことです。利き酒師の資格はそのために取得しました。お店で手相もみてあげたいので、古い師の勉強も始めました。JAIPA会員の皆さんにおいでいただき、楽しい話の続きができる日を楽しみに。その前に、コロナが収束したら是非、飲みに行きましょうね!

名誉会員 小林 洋子



行きつけのスーパーの駐車場を整理している警備員さんと相性が悪い。ここ数年、駐車場に入って警備員さんを見かけると気分が下降してしまう。なぜなら戦いが始まるのだ。私はそこに入りたいのよ、でも、警備員さんは遠くの遠くに誘導する。いやいや、私の車には足の悪い年老いた母親が乗っているのよ。遠くに止めたら、荷物持って大変なの。カートで運んだって、そのカート戻さないといけなし。

また、邪魔な場所にいらっしゃるのよ、警備員さん。そこ、すぐそこ空いているのに、警備員さんがいるから止められない。結局、ぐるーっと駐車場を一周して、試みるわけです、その場所を。またまた、下手なの、そのスーパーの駐車場の警備員さんの誘導。

まあでも、ここ最近では、母親が混んでいる時間帯を避けたい、との理由もあって、警備員さんの勤務時間が終わった後ぐらいに行くことが多くなったんで、そんな不毛な戦いもなりをひそめていた先日のこと。

スーパーに入る前に、入り口付近のリサイクルのゴミを分別して出しているのだが、市がリサイクルのゴミは出来るだけ買ったスーパーにお出しください、って推奨しているの。その日は風が強かった。いつものように、牛乳パック、食品トレー、空き缶、ペットボトル、と分別していたら、一瞬の強風で食品トレーがひとつ、さささささーと飛んでいってしまっ。えー、道路の方まで行っちゃったよ、と、引き取りにいきました、私。スーパーの前の道路、まだ絶賛区画整理の工事中なものだから、街灯が設置されていなくて、暗いの、道路が。その中で、まだ道路に行き着く前の白い食品トレーを見つけ、あれ？でも、私が飛ばされたトレーは黒い小さなものだった気がしたんだけどなあと思いつつ拾い、戻ろうとしたその時に、道路からさささささーと遊歩道に舞い戻ってきた私の飛ばされた食品トレーを見つけ、無事再会いたしました。食品トレーを2つ持って、スーパーに戻ったら、警備員さんと目が合って、最近、戦っていなかった気のゆるみからなのか、つい「これ（食品トレー）飛ばされちゃって取りに行ったんですー」と言ったら「え？」と聞き返されたので、「これ（食品トレー）が風で飛ばされちゃったから、取りに行ったんですー。さっき、風が強く吹いたから」

「いやあ、そんな強い風が吹いたら、俺の方が飛ばされちゃうよおー」

……え？おじさん、食品トレーより軽いの？ねえ発泡スチロールでできた食品トレーより軽いの？やっぱ、相性悪いわ…（T）

JAIPA Express Vol.53

2021年3月25日 初版第1刷発行

発行所 一般社団法人日本インターネットプロバイダー協会（JAIPA）
〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-36-1 オダカビル6F
TEL:03-5304-7511 FAX:03-3379-5530
URL:http://www.jaipa.or.jp/ E-mail:info@jaipa.or.jp

印刷 フジサービス株式会社
〒105-0014 東京都港区芝2-20-8



■本書の内容に関するご質問は、E-mailにてお問合せください。
■本書掲載記事の無断掲載・放送は堅くお断りいたします。
■乱丁、落丁本がございましたらお取り替えます。

©2021 Japan Internet Providers Association